

風土記の丘の花だより²⁴⁸

今、そしてこれから見られる植物(2024年8月10日)

先日、8月6日の夜、拙宅の周辺では、やっと雨が降りました。夜中でしたが思わず玄関を開けて雨を眺めました。それほど雨が恋しかったのでしょうか。ところで、244号で開花したらお知らせしますと言ったウバユリですが、どうしたのか、花茎が見えません。今年はどうやら花は見られないようです。残念ですが、来年に期待しましょう。



その代わりと言うのも変ですが、タカサゴユリがたくさん咲いています。外来植物ですが、改めて見てみるとなかなかきれいな花ですね。このユリは最近どこでも見られるようになりました。とくに高速道路沿いでは群生が見られます。ほかのユリは球根でふえ、開花までに何年もかかりますが、タカサゴユリは種子でふえ、1年で開花するものもあるようです。外来植物とはいえ、島国の我が国では、考えようによっては、そのほとんどが外来植物なのです。まあ、考え方は人それぞれと言うことで……。



小早川家の庭でピンク色のナツズイセンの花が咲いています。今年は花数が少ないです。どうやら、畑を耕す時に、球根を傷つけてしまったようです。ヒガンバナと同じく、春には葉がありますが、夏になると枯れてしまい、真夏に花茎だけが伸びて花を咲かせます。ですから、花の季節以外はこの花の存在は全くわかりません。これは少し前に紹介したキツネノカミソリにも言えることです。(でもこれをご覧いただくころには、花はもうないかなあ……)



真夏の花サルスベリが咲いています。漢字で百日紅と書くのは、花期が長いことを表しています。フリルのようにひらひらした花びらが特徴的です。数えにくいですが6枚あります。中国辺りが原産で、かなり昔に日本に渡ってきたとされています。夏は咲いている花が少なく、その意味ではこのサルスベリは貴重な花とも言えますね。白い花をつける株もありますが、やっぱり漢字にあるように紅色のものが多いです。樹皮がツルツルしてお猿さんも滑ってしまうなんて、名前の付け方が面白すぎますね。



新池の西のツバキに巻き付いたサネカズラの花が咲いています。別名をビナンカズラといい漢字では「美男葛」と書きます。これは昔、この茎から出る樹液を整髪料に使ったことによります。ひょっとして藤原道長も使っていたかも知れませんね。写真のように中が赤いのは雄花です。雌花は赤くありません。雌花の後には実ができて、秋にピンポン球くらいになり、真っ赤に熟します。

松下